

キャスト

大募集!



郡上藩初代藩主

遠藤慶隆

山内一豊の妻

千代

慶隆腹心の家臣

粥川五郎左衛門

なぜ今、遠藤慶隆?

遠藤慶隆は郡上藩初代藩主となりましたが、その人生は苦勞の連続でした。わずか13歳で家督を継いだ後は、信長・秀吉・家康といった歴史に名を残す武将に從つて、戦いに明け暮れました。途中、郡上を離れて加茂郡に転封されるといふ苦難もありながら郡上の地に復歸し、戦国の世を生き抜きました。そこには、今評判のNHK大河ドラマ「真田丸」の真田氏一族の苦難と活躍にも匹敵するドラマがあります。大国がひしめく戦乱の世の中で、地方の小国である郡上が最終的には「郡上藩」として成立し、現在の「郡上市」まで繋がっていることは、遠藤慶隆の功績であるとも言えます。この慶隆の功績は、地方が魅力あふれる地域となり自立すること、つまり「地方創生」に繋がるとも言えるのではないのでしょうか? 地方創生が盛んに叫ばれる今だからこそ、その先駆者である遠藤慶隆に注目し、今回「ふるさと武将」として取り上げることになりました。あなたも、一緒に郡上を盛り上げませんか?

募集要項

事業名称：郡上市歴史物語実演体制整備事業

応募資格：市内及び郡上市近隣市町村にお住まいで、打ち合わせと練習に通うことができ、求めに応じ出演が可能な満18歳以上の人

従事期間：平成28年9月上旬～平成28年11月中旬（予定）※必要により延長あり

募集キャスト

遠藤慶隆 役 1人 (男性)

●郡上藩初代藩主で、今の郡上の礎を築いた英雄

千代 役 1人 (女性)

●慶隆の妹とされ、夫(山内一豊)の立身出世を支えた逸話が数多く残る

粥川五郎左衛門 役 1人 (男性)

●父である粥川甚右衛門と粥川家2代にわたり慶隆に仕え、郡上八幡城の激戦にて活躍した慶隆の家臣

計3人 ※オーディションにより決定します。

出演内容：郡上八幡ふるさと祭り・郡上八幡城もみじまつり等に出演し、郡上市の観光PRを行う。(その他、必要により出演を依頼する場合があります。)

報償等：出演1時間につき1,100円(出演時間は、相談の上決定)

応募方法：履歴書(顔写真入り)を次の応募先まで郵送または持参

※備考欄にどの役が希望かを記入してください。

※必ず連絡先の記入をお願いします。

※ご自身のアピールポイントも記入してください。

応募先：商工観光部観光課

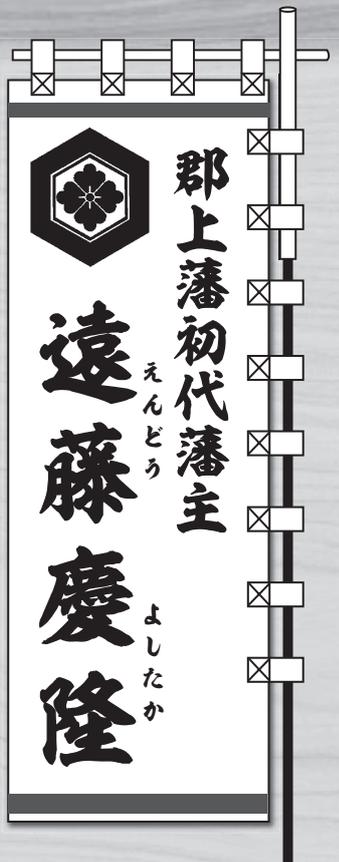
〒501-4222 郡上市八幡町島谷130-1

TEL / 0575-67-1808 FAX / 0575-67-1820

締切：8月31日(水) 必着



▲活動内容イメージ



遠藤慶隆とは？
1550年
1632年

遠藤慶隆(えんどうよしたか)は、戦国時代の郡上を舞台に活躍した戦国武将で、かの織田信長、豊臣秀吉という歴史上の英雄に仕えました。また徳川家康による江戸幕府成立後は、郡上藩2万7千石の初代藩主となりこの地を治めました。

遠藤家について

慶隆の父は、遠藤盛数(えんどうもりかず)で、中世郡上を治めた東氏と争った「赤谷山の戦い」(1559年)で勝利し、現在、天空に浮かぶ城として脚光を浴びている郡上八幡城の礎を築きました。なお、「内助の功」で有名な山内一豊の妻・千代(ちよ)は、慶隆の妹という説があり、郡上では「お千代さん」として親しまれています。

慶隆、郡上統一の道

盛数の死後、慶隆はわずか13歳で後を継ぎ、郡上を治めなが

ら、信長や秀吉の求めに応じて各地を転戦しました。

姉川の戦いへの参戦

織田・徳川の連合軍と、浅井・朝倉の連合軍による姉川の戦い(1570年)で、慶隆は浅井軍の先鋒と激戦し、織田軍の本陣を支え、信長は慶隆の働きを大いに称えました。

この姉川の戦いで、実際に慶隆が着用した鎧が、郡上八幡城に展示されています。相手の攻撃をかわし易くするため、胴の部分が少し山型になっているのが特徴です。

秀吉に従う

信長に代わり台頭した秀吉に美濃の武将の多くは従いましたが、慶隆は昔のまま織田家に忠義を貫きました。しかし立花山の戦い(1583年)で、慶隆は秀吉軍に敗れ、秀吉に従うことになりました。慶隆は、秀吉の傘下においても、小牧長久手の戦い、九州征伐などに従軍し、目覚ましい活躍をしました。

慶隆、屈辱の左遷

しかし1588年に、秀吉に対する立花山での反抗を理由に郡上2万余石を没収され、わずか1万3千石の加茂郡小原(現白川町)に転封されました。この転封によって石高が激減し、家臣を養うことができなくなった慶隆の元を離れる者が3分の1に達したとも言われています。

す。

慶隆が左遷された後、秀吉の家臣である稲葉貞通(いなばさだみち)が郡上へ入部しました。現在の城郭の大部分はこの時期に整備されたものです。

郡上奪還へ

1600年に「関ヶ原の戦い」が起きると、加茂郡小原にいた慶隆は、郡上を取り戻そうと考えました。美濃の武将の多くが豊臣方につく中で、慶隆は徳川方につき、郡上八幡城を取り戻す許可を家康に求めました。慶隆が美濃の中で、ただ一人忠誠を誓っていることを知った家康は大変喜び、金森長近(かなもりながちか)に援軍につくように命じ、郡上八幡城の奪回を許可しました。

激戦! 郡上八幡城の戦い

1600年9月1日、慶隆の復讐戦ともいえる「郡上八幡城の戦い」が火ぶたを切りました。郡上八幡城の稲葉氏に対し、慶隆の本隊と金森氏の援軍は二手に分かれ、愛宕山方面と明宝方面、八幡町五町方面の三方から攻め入り、郡上八幡城への総攻撃をしかけ激戦となりました。その後稲葉貞通の急襲もあり、この戦いは双方多数の死傷者が



出ました。最終的には、家康から慶隆へ安堵状(郡上を治める権利を保障する文書)も届いており、稲葉貞通は慶隆に郡上八幡城を明け渡しました。こうして慶隆は郡上に復帰し、郡上は再び遠藤家の支配地になったのです。

▼出典: 郡上の中世と遠藤慶隆(高橋教雄著、郡上八幡町史、図説郡上の歴史、八幡城ものがたり)

五人塚
 郡上八幡城の激戦で、慶隆を助け、自ら楯となって散った5人の家臣(遠藤長助・鷲見忠左衛門・粥川五郎左衛門・粥川小十郎・餌取作助)の供養のために建てられたものです。八幡町の愛宕公園に供養碑が建てられています。